１−１０　哲　学

研究・教育活動の概要と特色

本専攻分野においては、古代ギリシアに始まり、主として西欧世界に受け継がれて今日に至っている西洋哲学の営みを引継ぎ、さらに推進することが目指されている。そこで研究は、先人たちの思想的遺産を研究対象とする歴史的考察と、哲学の問題そのものと対峙する体系的考察とを車の両輪として進められる。スタッフの専門分野は古代中世哲学、近現代哲学、科学哲学、生命環境倫理学（科学技術倫理／臨床倫理学を含む）などであり、講義や研究演習を通して、原典（英語、独語、仏語、ギリシア語、ラテン語に亙る）の厳密な読解と、それに基づく哲学的探究を実践すると共に、研究能力を身につける訓練を行っている。学生の指導にあたっては、自ら選んだテーマをめぐって、先人と対話すべく原典に向かい、また先行研究を押えた上で、自らの思索を展開することにとくに留意している。なお、社会人コースの学生は、社会の現場において抱くようになった問題意識に基づくテーマを選ぶこともできるようにしている。

本専攻分野の特色は、第一に1922年（大正11年）創設以来の伝統ある学問活動の蓄積である。高橋里美をはじめとして、日本の哲学研究をリーダーする研究者たちが歴代の教員となり、現象学をはじめとして顕著な業績を挙げた研究者を輩出してきた。このような伝統を受け継ぎつつ、哲学研究を国際的な場でさらに推進しようとしている。第二に、以上に加えて近年は、現代社会が抱える諸問題に哲学の視点から向かう試みに意欲的に取り組んでいる点が、特色として挙げられる。このため、倫理学専攻分野と連携しつつ、科学研究費、受託研究費（日本学術振興会　人文・社会科学振興研究事業）を積極的に導入し、一連の研究プロジェクト全体を、「人間の21世紀的Well-Being研究プロジェクト」として総括して、文学研究科の主要研究プロジェクトの一つとして推進している。現在は「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」（科学研究費補助金基盤研究（A））をテーマに、科学技術倫理を中心にしたアクチュアルな課題と取り組んでいる。また2008年度からは、理学研究科のグローバルＣＯＥ「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」に講座として関わり、事業の展開に積極的に協力している。

Ⅰ　組織

１　教員数（2008年 9月現在）

教授：2

准教授：2

講師：0

助教：1

教授：野家 啓一　座小田豊

准教授：直江清隆　荻原理

助教：菅沼聡

２　在学生数（2008年 9月現在）

学部 （2 年次以上）	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生	科目等履修生
43	2	9	16	2	0

３　修了生・卒業生数（2003～2007年度）

年度	学部卒業者	大学院博士課程前期修了者	大学院博士課程後期修了者（満期退学者）	博士学位授与者
03	9	1	(0)	2
04	11	6	(1)	2
05	7	7	(8)	1
06	13	5	(2)	4
07	11	2	(0)	3
計	51	21	(11)	12

Ⅱ　過去5年間の組織としての研究・教育活動（2004～2008年度）

１　博士学位授与

１－１　課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
04	2	0	2
05	0	1	1
06	4	0	4
07	1	2	3
08	2		2
計	9	3	12

１－２　博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

山本史華、2004 年、『人称論の構築 — 無私からの人称の生成とその倫理 —』

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・清水哲郎、教授・座小田豊、教授・篠 憲二

福間聡、2004 年、『Ｊ・ロールズの分析的倫理学の再構成 — 共有可能な理由を求めて —』

審査委員：教授・清水哲郎（主査）、教授・野家 啓一、教授・座小田豊、教授・篠 憲二、講師・荻原理、教授・川本隆史（東京大学）

後藤嘉也、2005 年、『他なるものの声 — ハイデガーにおける循環と転回 —』

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・篠憲二、教授・清水哲郎、教授・座小田豊

飯野勝己、2006 年、『言語行為と発話解釈―コミュニケーションの哲学に向けて―』

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・清水哲郎、教授・座小田豊、助教授・戸島 喜代志

三谷鳩子、2006 年、『トマス・アクィナスにおける神の似像としての人間』

審査委員：教授・清水哲郎（主査）、教授・野家啓一、教授・座小田豊、教授・篠憲二、講師・荻原理、

小笠原史樹、2006 年、『全能論の臨界点―トマス・アクィナスの哲学的神学―』

審査委員：教授・清水哲郎（主査）、教授・野家啓一、教授・座小田豊、助教授・荻原理

張　政遠、2006 年、『Experience, Other, Body and Life – On Nishida Kitaro's Phenomenological Philosophy –（経験、他者、身体、生命―西田幾多郎の現象学的哲学をめぐって）』

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・清水哲郎、教授・座小田豊、助教授・戸島喜代志、助教授・直江清隆、助教授・荻原理

伊藤周史、2007 年、『絵画の視覚とその存在論的思考―現象学的像理論とメルロ＝ポンティにおける可視性の哲学―』

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・座小田豊、准教授・戸島喜代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理

滝口清栄、2007 年、『ヘーゲル「法（権利）の哲学」―形成と展開―』

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・野家啓一、准教授・戸島喜代志、准教授・直江清隆

野家伸也、2007 年、『自然化された現象学―知の再統合のための試論―』

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・森本浩一、准教授・戸島喜代志、准教授・直江清隆

山田圭一、2008 年、『知識・懐疑・確実性－ウィトゲンシュタイン最後の思考－』
審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・座小田豊、教授・森本浩一、准教授・直江清隆、准教授・荻原理

井頭昌彦、2008 年度、『多元論的自然主義の可能性』
審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・座小田豊、教授・戸島喜代志、教授・森本浩一、准教授・直江清隆、准教授・荻原理

２ 大学院生等による論文発表

２－１　論文数

年度	審査制学術誌（学会誌等）	非審査制誌（紀要等）	論文集（単行本）	その他	計
04	7	0	2	0	9
05	8	1	1	1	11
06	7	2	1	3	13
07	4	0	1	3	8
08	6	2	1	2	11
計	32	5	6	9	52

２－２　口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
04	1	7	4	1	13
05	2	3	8	2	15
06	0	10	7	0	17
07	0	0	3	1	4
08	0	3	3	1	7
計	3	23	25	5	56

２－３　上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

（１）論文

阿部ふく子「ギリシア的共同原理と近代国家の接点――歴史哲学主題化以前のヘーゲル国家論」、『思索』（東北大学哲学研究会）、第 38 号、2005 年

阿部ふく子「思弁的思考と弁証法――思弁哲学の困難と可能性をめぐるヘーゲルの視点」、『東北哲学会年報』、東北哲学会編、第 23 号、pp.19-32、2007 年

飯野勝己『言語行為と発話解釈――コミュニケーションの哲学に向けて』勁草書房、2007 年

井頭昌彦「クワインにおける物理主義と自然化された認識論」、『科学哲学』38-2 号、2005 年
井頭昌彦、「分析性は理解不可能な概念なのか？」、『哲學』（日本哲学会）、第 58 号、2007 年
井頭昌彦、「翻訳／訳者解説（ハンス・ラダー「実験科学における再現と非局所性」）」、『MORALIA』（東北大学倫理学研究会）、第 14 号、2007 年
伊藤周史「視覚における根底的思考の経験」、『現象学年報』2006 年
遠藤健樹「戦間期シュトラウスにおける「道徳的拘束性」の問題」、『レオ・シュトラウスの哲学とシュトラウス学派政治思想の研究　課題番号 17320022　平成 17 年度～ 19 年度科学研究補助金（基盤研究(B)）研究成果報告書』、2008 年 3 月 31 日、pp.129-149.
小笠原史樹「トマス・アクィナスの全能論」『中世思想研究』、47、2005 年
小笠原史樹「神の絶対的能力――トマス哲学の一断面」『哲学』（日本哲学会）第 57 号、2006 年
齋藤直樹『美の理論』における「美的支配」と「非暴力的総合」の概念―アドルノにおける「道具的理性批判」の展開をめぐって、『思索』第 37 号、2004 年
齋藤直樹「仮面」としてのディオニュソス―初期ニーチェにおける「ディオニュソス的象徴法」の概念について、『倫理学年報』54 号、2005 年
齋藤直樹、行為の意味についての「表出主義的議論」の妥当性に関する一考察―エアーならびにスティーブンソンによる「情動主義」的意味論の検討を介して、『モラリア』第１３号、東北大学倫理学研究会編、2006 年
佐藤駿,「知覚意味のダイクシス」，フッサール研究会，於・関西大学，2007 年 3 月。佐藤駿,「指示と構成」,『思索』40 号、2007 年。113-134
佐藤恒徳「無限の論理と無限の美感――カントの崇高論――」、『倫理学年報』、第 57 集、2008 年
（翻訳）佐藤恒徳　ゲルノット・ベーメ「カントにおける自己開化」、『思索』（東北大学哲学研究会）、第 40 号、2007 年
佐藤優子「「有限性」の意味するもの　―― ハイデガー『哲学への寄与』における「神」の問題をめぐって」、『文化』（東北大学文学会）、第 68 巻 1･2 号、2004 年
佐藤優子「ハイデガーとキリスト教」、『創文』（創文社）、474 号、2005 年。
佐藤優子「人間が神に向き合う最後の可能性 ―― 「最後の神」」、鹿島徹・相楽勉・

佐藤優子・関口浩・山本英輔・H.P.リーダーバッハ共著『ハイデガー『哲学への寄与』解読』（平凡社）、2006 年。
佐藤優子、「「宗教的生」とは何か ── ハイデガー宗教現象学講義をめぐって ── 」、『東北哲学会年報』（東北哲学会）、第 23 号、47 頁－ 58 頁、2007 年。
信太光郎「ハイデガーにおける〈力〉の現象学」、『現象学年報』、20 号、2004 年
信太光郎「力と歴史―〈力学的差異〉の観点によるハイデガー哲学の再解釈の試み―」『倫理学年報』、55、2006 年
信太光郎「ハイデガーの生命論的時間論」、『現象学年報 23』　日本現象学会編 2007 年
菅沼 聡「究極の問い再考」、『哲学』(日本哲学会)第 55 号、2004 年
鈴木亮三「人間の変容と労働ーヘーゲルの労働論を手引きに」、東北哲学会年報、第 24 号、43-58 頁、2008 年。
田代志門「確率化する医療と『インフォームド・コンセント』の誕生」、杉田米行監修『日米医療保障比較』、アーキテクト、2006 年
田代志門「被験者保護システムの構築に向けて」、『臨床倫理学』、4、2006 年
田代志門「医療倫理における『研究と治療の区別』の歴史的意義――日米比較の視点から」、『臨床倫理学』、4、2006 年
千田芳樹「神話、民族、そして人間精神の創造性についてーカッシーラー『象徴形式の哲学』における神話哲学の位置づけ」『東北哲学会年報』、20 号、2004 年
千田芳樹「カッシーラー『国家の神話』における政治的神話批判の意義」、『シェリング年報』、第 13 号、2005 年
張 政遠 “Live and To Live”、『思索』、36、2004 年
張 政遠 “Japanese Philosophy in Chinese-speaking Regions”、*Japanese Philosophy Abroad* (単行本)、2004 年
張 政遠「西田幾多郎の生命の哲学」、『東北哲学会年報』、21、2005 年
二瓶真理子「ポパーにおける科学の合理性」、『思索』、38、2005 年
二瓶真理子，「人間／非人間が作り出す世界――アクターネットワーク概観」，『モラリア』，東北大学倫理学研究会，第 14 号，61 － 77，2007
二瓶真理子，「経験的基礎と世界３」，『東北哲学会年報』，東北哲学会，第 24 号，29 － 41，2008
日笠晴香「R・ドゥオーキンにおける生の不可侵性と生死に関する決定」、『思索』（東北大学哲学研究会）、第 39 号、2006 年

日笠晴香「一つの人生か別の人格か――事前指示の有効性をめぐって――」、『医学哲学・医学倫理』、第 25 号、2007 年

日笠晴香「予め決めておく――事前指示をどう考えるか」、清水哲郎編『高齢社会を生きる　老いる人／看取るシステム』東信堂、2007 年。

福間 聡『現代倫理学事典』、弘文堂、2006 年 11 **月(単行本、共著)**人名項目（「C.オッフェ」、「J.C.ハーサニィ」、「R.プライス」、「R.B.ペリー」、「I.M.ヤング」、「D.K.ルイス」、「J.ロイス」、「G.サンタヤナ」）、**事項項目（「動物の権利」、「菜食主義」）、および「倫理学基本文献年表」を担当。**

福間 聡「理由の復権 ―公共的理性に基づく正当化―」、南山大学社会倫理研究所『社会と倫理』2006 年 5 月、第 19 号、pp. 44-58。

福間 聡『ロールズのカント的構成主義 ―理由の倫理学― 』、勁草書房、2007 年 2 月（単行本、単著）

福間 聡 『経済倫理のフロンティア』、ナカニシヤ出版 、2007 年 5 月（単行本、単著）第 11 章「福祉国家の原理と課題」、第 12 章「福祉社会の可能性」を担当（共同執筆者　柘植尚則・田中朋弘・浅見克彦・深貝保則・柳沢哲哉）。

福間 聡『書評：渡辺幹雄著／「ロールズ正議論とその周辺」/春秋社（２００７）』、週刊読書人、2007 年 8 月 31 日（その他）

松浦明宏　単著『プラトン形而上学の探求　-『ソフィステス』のディアレクティケーと秘教-』東北大学出版会、2006 年 4 月

松浦明宏　項目翻訳執筆「医療倫理（ヨーロッパの歴史：現代）II.南ヨーロッパ」「医療倫理（ヨーロッパの歴史：現代）III.ベネルクス諸国」、「医療倫理（ヨーロッパの歴史：現代）VIII.中央および東ヨーロッパ」、『生命倫理百科事典』丸善、2007 年 1 月

三谷鳩子「トマスにおける自己認識」、『哲学』（日本哲学会）、第 57 号、2006 年

三谷鳩子「トマスの恩寵論におけるハビトゥス概念の一考察」、『中世思想研究』（中世哲学会）、第 49 号、2007 年

山下哲朗「分節から可能性へ―ハイデガーにおけるロゴス規定の変容に見る世界概念の仕上げ」、『思索』（東北大学哲学研究会）、第 39 号、2006 年

山下哲朗「カテゴリー的直観と＜存在への問い＞」、『東北哲学会年報』、東北哲学会編、第 24 号、pp.59-72、2008 年

山田圭一「間違いの可能性と懐疑論」、『東北哲学会年報』、第 21 号、2005 年

山田圭一「懐疑論を文脈主義によって解決する方法」、『科学基礎論研究』（科学基

礎論学会編)、第 107 号、2007 年

山田圭一「技術倫理の認識論的基盤の構築を目指してー工学の認識論に対する文脈主義的アプローチー」、『モラリア』(東北大学倫理学研究会　編)、第 14 号、2007 年

山田圭一「最晩年ウィトゲンシュタインの連続性テーゼが意味するもの」、『哲学』(日本哲学会　編)、第 59 号、2008 年

山本史華「二つのパーソナル・アイデンティティ」、『思索』、37 、2004 年

山本史華「人称のタキソノミー」、『フィロソフィア・イワテ』、36、2004 年

（２）口頭発表

阿部ふく子「ポリス的統一原理と近代国家の接点ー歴史哲学主題化以前のヘーゲル国家論」、東北大学哲学研究会、2004 年 6 月

阿部ふく子「歴史哲学主題化以前のヘーゲル国家論」、科学研究費（研究課題「芸術終焉論の持つ歴史的な文脈と現代的な意味についての研究」、代表者：新潟大学 栗原隆）による研究会、於・新潟大学、2005 年 8 月

阿部ふく子「ヘーゲルの「作品」論――個と普遍のあいだへの視座」、北日本哲学会、於・東北大学、2006 年 1 月

阿部ふく子「思弁と弁証法――思弁哲学の困難と可能性をめぐるヘーゲルの視点」、東北哲学会第 56 回大会、於・山形大学、2006 年 10 月

阿部ふく子「理性の思弁と脱自―ヘーゲルとシェリングにおける理性の可能性に関する考察―」、日本ヘーゲル学会第 6 回大会、於・日本女子大学、2007 年 12 月

阿部ふく子「シェリングとヘーゲルの啓蒙批判と教育・学問論」、科研費共同研究公開研究会（課題番号 20320003「空間における形の認知を介した「主体」の存立の基底に見る感覚の根源性についての研究」)、於・新潟大学、2008 年 8 月

伊藤周史「視覚における根本的思考の経験」、日本現象学会、2006 年 10 月

遠藤健樹「戦間期シュトラウスにおける「道徳的拘束性」の問題」、第 13 回政治哲学研究会、2007 年 8 月 28 日

井頭昌彦「分析性は理解不可能な概念なのか？―記述か規範的提案か―」、北日本哲学研究会、2005 年 1 月８日

井頭昌彦、横地徳広、戸島　喜代志、「大学間における工学倫理教育プログラムの

改訂用マニュアル作成ーー工学関連学会での倫理規定を踏まえつつーー」（ポスター発表）、東北大学若手萌芽研究育成プログラム（ERYS）研究成果発表会、2007 年 7 月

遠藤健樹「実践的実在性と超感性的自然」東北大学哲学研究会、『思索』例会、2005年6月6日

遠藤健樹「戦間期シュトラウスにおける「道徳的拘束性」の問題」、第 13 回政治哲学研究会、2007 年 8 月 28 日

大塚良貴「派生は根源を証しするか」、東北哲学会、2004 年 10 月 24 日

大塚良貴「歴史的出来事の実在性をどう考えるか」、哲学・思想若手研究者の会、2004 年 12 月 12 日

大塚良貴「言語行為としての歴史の物語り」、〈社会と臨床〉研究会、2005 年 7 月 9 日

大塚良貴「美のトポロジー」、哲学・思想若手研究者の会、2006 年 3 月 19 日

小笠原史樹「トマス・アクィナスの全能論」、中世哲学会、2004 年 10 月 30 日

齋藤直樹「「芸術的根本現象」としての「身体」―後期ニーチェにおける「遠近法主義」の思想に関して」、 東北哲学会、2003 年

佐藤恒徳「論理的な大きさと美感的な大きさ――無限論としての崇高論――」カント研究会、2006 年 3 月 25 日

佐藤恒徳「無限の論理と無限の美感――カントの崇高論――」日本哲学会、2007 年 5 月 20 日

佐藤優子、「「宗教的生」とは何かーハイデガー宗教現象学講義をめぐって」、東北哲学会、山形大、2006 年 10 月 22 日。

信太光郎「ハイデガーの生命論的時間論」、日本現象学会第 28 回大会、2006 年 11 月

鈴木亮三「ヘーゲルの「精神」概念がギリシア世界から継承したもの」、東北大学哲学研究会、2005 年 6 月 12 日

鈴木亮三「死と再生―ヘーゲル『精神現象学』を導きとして」（日本哲学会）

鈴木亮三「異類女房譚―二つの鯉女房」（静岡大、山梨大合同研究会）

鈴木亮三「人間の変容と労働」、東北哲学会第 57 回大会、東北大学、2007 年 10 月。

菅沼　聡「究極目的はいかに自然化され得るか」、名古屋哲学フォーラム発表(南山大学)、2004 年 6 月

竹之内裕文「「死」という現象へのアプローチ」、応用物理学会、有機分子・バイオエレクトロニクス分科会主催、第 18 回分子構造若手夏の学校講師、2004 年

田代志門「臨床研究の社会的コントロール」、公開シンポジウム「臨床研究の倫理——被験者保護システムの展望」、於・ホテルリッチフィールド仙台、2006 年 2 月

田代志門「『研究の定義』をめぐる争い」、第 25 回日本医学哲学・倫理学会大会、於・大阪大学、2006 年 10 月

千田芳樹「文化と神話ーカッシーラー『国家の神話』における神話批判によせて」、日本シェリング協会、2004 年

張 政遠「西田幾多郎的現象学哲学」、現象学与仏教哲学(香港中文大学)、2004 年 2 月 13 日

張 政遠 “Japanese Philosophy in Chinese-speaking Regions”、Source Book in Japanese Philosophy(南山大学)、2004 年 6 月 7 日

張 政遠「西田幾多郎の生命の哲学」、東北哲学会、2004 年 10 月 23 日

張 政遠 “The Problem of Evil in Confucianism”、Religion and Evil (Vrije Universiteit Amsterdam)、2005 年 3 月 19 日

張 政遠「身体と道具」、日本現象学会、2005 年 11 月 13 日

張 政遠「身体与道具」、現象学与世界(香港中文大学)、2005 年 12 月 29 日

浪岡 淳「自己同定の基層」、日本科学哲学会・第 38 会大会（ワークショップ「自己同定とは何か？」)、2005 年 12 月 4 日

二瓶真理子「ポパーにおける真理と真理近似性」、東北大学哲学研究会、『思索』例会、2005 年 6 月 27 日

二瓶真理子「科学的事実はつくられているのか？ —社会構成主義と実在論の問題」、北日本哲学研究会、2006 年 1 月 14 日

二瓶真理子,「ポパーにおける心身問題と「心の哲学」」, 日本ポパー哲学研究会, 日本大学文理学部キャンパス, 2008 年 7 月 5 日

日笠晴香「R・ドゥオーキンにおける生の不可侵性と生死に関する決定」、東北大学哲学研究会、2006 年 6 月

日笠晴香「一つの人生か別の人格か——事前指示の有効性をめぐって——」、日本医学哲学・倫理学会、於・大阪大学、2006 年 10 月

福間 聡「フレーゲ-ギーチ問題と規範-表出主義 —論理と理由の観点から—」、第 56 回東北哲学会、山形大学小白川キャンパス、2006 月 10 月。（国内学会）

福間 聡「ロールズ哲学から見た規範倫理学とメタ倫理学 —政治哲学における「理由」の復権—」、南山大学社会倫理研究所懇話会（2006 年第 2 回)、南山大学

名古屋キャンパス、2006 年 6 月。（国内研究会）

福間 聡「Allan Gibbard, *Wise Choices, Apt Feelings* をめぐって」、広島大学応用倫理学プロジェクト研究センター 2006 年度第二回例会、ホテルグランヴィア広島、2006 年 12 月。（国内研究会）

松浦明宏「プラトンの対話篇に書かれた秘教 -「あらぬもの」のエイドス-」、第 4 回多摩哲学会、2006 年 9 月

松浦明宏「徳とは何か ―隠れたカリキュラム再考―」、第 56 回東北哲学会、2006 年 10 月

松浦明宏「「隠れたカリキュラム」概念の再考」、神戸大学医学部保健学科学習会「看護教育における『隠れたカリキュラム』に関する研究」、2007 年 1 月

三谷鳩子「トマスの恩寵論におけるハビトゥス概念の一考察」、中世哲学会（岡山大学）、2005 年 10 月

山田圭一「私は何を知っているのかー認識的文脈主義の立場からー」、北日本哲学研究会、2004 年 1 月

山田圭一「認識的文脈主義の射程」、科学基礎論学会、2004 年 6 月

山田圭一「間違いの可能性と懐疑論ー最晩年ウィトゲンシュタインの知識を巡る考察ー」、東北哲学会、2004 年 10 月

山田圭一「ウィトゲンシュタインと懐疑論ー最晩年連続主義への転換点を探ってー」、若手研究者フォーラム、2005 年 7 月

山田圭一「ウィトゲンシュタイン的文脈主義によって知識を壊れにくくする」、哲学若手研究者フォーラム、2008 年 7 月

山下哲朗「ハイデガーにおけるロゴス規定の変容に見る、世界概念の仕上げ」、東北大学哲学研究会、2006 年 6 月

山下哲朗「カテゴリー的直観と＜存在の問い＞」、第 16 回「現象学を語る会」、2007 年 6 月

山下哲朗「カテゴリー的直観と＜存在への問い＞」、東北哲学会第 57 回大会、2007 年 10 月

山本史華「人称のタキソノミーについて」岩手哲学会、2004 年 7 月

３　大学院生・学部生等の受賞状況

福間　聡　　日本倫理学会　和辻賞　2007 年 11 月

山田圭一　　日本哲学会　　若手研究者奨励賞　2008 年 5 月

４　日本学術振興会研究員採択状況

2002 ～ 2004 年度　PD 採用　　1 名

2003 ～ 2004 年度　DC2 採用　1 名

2003 ～ 2005 年度　DC1 採用　1 名

2003 ～ 2005 年度　PD 採用　　1 名

2004 ～ 2005 年度　DC2 採用　2 名

2005 ～ 2006 年度　DC2 採用　1 名

2007 ～ 2009 年度　DC1 採用　1 名

５　留学・留学生受け入れ（2004～2008年度）

５－１　大学院生・学部学生等の留学数

2003 ～ 05 年度　大学院　パリ第　大学（フランス））

５－２　留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
04	0	1	1
05	0	1	1
06	0	1	1
07	0	0	0
08	0	0	0
計	0	3	3

６　社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
04	0(1)	1(2)	1(3)
05	0(1)	0(3)	0(4)
06	0(1)	0(3)	0(4)
07	0(0)	0(3)	0(4)
08	0(0)	0(0)	0(0)
計	1(4)	1(11)	2(15)

７　専攻分野出身の研究者・高度職業人

７－１　専攻分野出身の研究者

千葉 胤久　　北海道教育大学旭川校講師　2004 年度

山本 史華　　東北大学薬学研究科 COE 助手　2004 年度
竹之内 裕文　　東北大学文学研究科助手　2005 年度
菅沼 聡　　東北大学文学研究科助手　2006 年度
竹之内 裕文　　静岡大学農学部助教授　2006 年度
張　政遠　　香港中文大学講師　2007 年度

７−２　専攻分野出身の高度職業人

2004 ～ 2008 年度の間では特になし

８　客員研究員の受け入れ状況

2004 ～ 2008 年度の間では特になし

９　外国人研究者の受け入れ状況

ガブリエル・アーベレス（ビーレフェルト大学講師）2006 年 7 月
フィリップ・モッセ（フランス・経済労働社会学研究所（LEST）所長 ）2006 年9月
劉　國英（香港中文大学教授）2006 年 11 月
チャールズ・バーネット（ケンブリッジ大学教授）2006 年 12 月
リュック・ブリッソン（社会科学研究所教授）2007 年 1 月
林　嵐（吉林大学教授）2006 年 12 月、2007 年 2 月
ハンス・ラダー(アムステルダム自由大学教授) 2007年3月
ゲルノート・ベーメ（ダルムシュタット工科大学名誉教授）2007 年 4 月
ロナルド・ブルジーナ（ケンタッキー大学教授）2007 年 7 月
張　政遠（香港中文大学講師）2007 年 8 月
ギュンター・ゲバウアー（ベルリン自由大学教授）2007 年 9 月
ダニエル・オグデン（エクセター大学教授）2007 年 9 月
カロリナ・グリュンシュロス（ハインリッヒ・ハイネ大学講師）2007 年 9 月
ドン・アイディ (ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校 Distinguished Professor) 2008 年 9 月

１０　刊行物

『思索』（東北大学哲学研究会）　年刊
『モラーリア』（東北大学倫理学研究会）　　年刊
『東北哲学会年報』（東北哲学会）　　年刊
『臨床倫理学』　不定期　1 号（2000）、2 号(2002)、3 号（2004）

１１　学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

東北哲学会事務局（2001 ～ 2005 年度）

2003 年度　研究集会《医療の質の向上を目指して》主催：研究プロジェクト《医療システムと倫理》）

2004 年度　国際ワークショップ「西洋・東洋の思想史・医学史における生・病・死」（イギリスのケンブリッジ大学ニーダム研究所にて、「東北大学ケンブリッジフォーラム」一環として開催）に協力。

2004 年度　第 54 回東北哲学会大会開催

2004 年度　東北大学文学部・文学研究科講演会　若桑みどり「男女共同参画と Well-being」共催：人間の 21 世紀的 Well-Being 研究プロジェクト

2004 年度　東北哲学会第 54 回大会における講演会およびシンポジウムの企画・開催：人間の 21 世紀的 Well-Being プロジェクト

2004 年度　第 4 回フッサール研究国際会議開催

2004 年度　第 1 回臨床倫理研究会「高齢者医療・介護の臨床倫理」開催（医療システムと倫理プロジェクト、仙台にて）

2004 年度　第 2 回臨床倫理研究会 Roger Crisp 講演会（21 世紀 COE:CRESCENDO との共催、学内）

2004 年度　第 3 回臨床倫理研究会「事例検討会」開催（水戸市にて）

2004 年度　第 4 回臨床倫理研究会「研究集会 臨床研究の倫理」主催：プロジェクト研究《医療システムと倫理》

2004 年度　第 5 回臨床倫理研究会（2005 年 2 月 6 日ホテルメトロポリタン）

2005 年度　国際中世哲学会年次コロキウムの主催（京都国際会館）：日本学術振興会国際研究集会として開催。

2005 年度　東北哲学会第 55 回大会・総会開催およびシンポジウムと講演会の企画・主催：21 世紀的 Well-Being プロジェクト

2005 年度　第 8 回北日本哲学研究会開催（北海道大学哲学研究室と合同で、大学院生が企画して開催する研究会。

2005 年度　プロジェクト研究《医療システムと倫理》公開シンポジウム「臨床研究の倫理 第 2 回：被験者保護システムの展望」開催

2005 年度　シンポジウム　科研「Well-being（福祉・いい暮らし・幸福）概念の再検討とその実践的適用」総括シンポジウム開催

2006 年度 4 月　日本哲学会第 55 回大会開催(東北大学)

2006 年度　講演会　科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的考察」主催　Luc Brisson　「プラトンにおける神々」　学内　1 月１２日

2006 年度　第 1 回公開講演会　科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」

2006 年度　第　回 KNS 研究会　（熊野）

2006年度　東北哲学会第55回大会・総会開催およびシンポジウムと講演会の企画・主催：

2006 年度　公開シンポジウム　科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」

2006 年度　第２回公開講演会　科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」（劉）

2006 年度　講演会　日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業《医 療システムと倫理》主催　2006 年 12 月 7 日　ライダー・K・リー(Reidar・K・Lie)「国際共同研究の倫理」アメリカ国立衛生研究所臨床生命倫理学部門国際研究倫理セクション長　　東北大学医学部艮陵会館

2006 年度　科研研究会（山内、Charles Burnett）2006 年 12 月 20 日(清水中世科研)

2006 年度　第８回　北日本哲学研究会（北海道大学にて開催）

2006 年度　第４回公開講演会　　科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」（Hans Radder）

2007 年度　シンポジウム　日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事 業《医療システムと倫理》主催　「被害のあと　医療におけるケア・補償・責任」2007 年 2 月 3 日(土)　ハーネル仙台

2007 年度　第 1 回公開講演会　科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」　（G.ゲバウアー)「唯物論と後期ウィトゲンシュタイン」学内　9 月 4 日

2007 年度　第２回公開講演会　科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社

会哲学的研究」（Daniel Ogden）「ギリシャ・ローマ世界における魔術と幽霊」学内　9 月 5 日

2007 年度　第 1 回公開シンポジウム　科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」10 月 27 日予定

2007 年度　第 1 回オープンフォーラム　科研「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」（東北大学未来科学技術協同センター組織マネジメントプロジェクト、大阪大学コミュニティーデザインセンタと共催）予定

2007年度　東北哲学会第56回大会・総会開催およびシンポジウムと講演会の企画・主催：

１２　専攻分野主催の研究会等活動状況

2004 年度　東北大学語言う哲学研究会（『思索』発表会）開催

2004 年度　第 28 回フッセル・アーベント開催（講師：貫成人）

2005 年度　東北大学哲学研究会（『思索』発表会）開催（6 月 6，13，20，27 日文学研究科棟にて）

2005 年度　第 29 回フッセル・アーベント開催（講師：戸島貴代志）

2006 度　東北大学哲学研究会（『思索』発表会）開催（6 月 7，14，21，文学研究科棟にて）

2006 年度　第 30 回フッセル・アーベント開催（講師：後藤嘉也）

2007 年度　東北大学哲学研究会（『思索』発表会）開催（6 月 3，14，21，28 日文学研究科棟にて）

2007 年度　第 31 回フッセル・アーベント開催（講師：ベーメ、小川侃）

2008 年度　東北大学哲学研究会（『思索』発表会）開催（6 月 9，16 日　文学研究科棟にて）

2008 年度　第 32 回フッセル・アーベント開催（講師：野家伸也）

１３　組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

本研究分野は、倫理学専攻分野と連携して、哲学講座としての研究活動を行っており、ことに最近は人間の21世紀的Well-being研究プロジェクトとして、研究を順調に展開していると評価できる。今後は理学研究科のグローバルＣＯＥ「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」に積極的に参加すると共に、より国際的な場での活躍へ向けて、一層の努力をしたい。また、研究成果の社会的還元についても一定の成果を挙げてきてい

るが、さらにこの点で展開する可能性がある。

教育活動としては、大学院の学位授与がまだまだ不十分である。ここ5年間で在籍のまま学位をとった件数は０であるが、退学したのち規定の年限内で学位をとるものは平均して毎年2名という状況である。これは指導を強化することにより、今後はさしあたって毎年2名程度は出すように努力する必要がある。今年度はすでに2名が学位をとっており、さらに1名提出予定である。退学後1年以内に提出するという条件がついた大学院生に移行しつつあることもあって、学位授与数が増加すると見込まれる。

修了後の就職については、以前よりも厳しい状況になってきており、大学等の研究機関の研究・教育職以外の道を見出す必要がある。

Ⅲ　教員の研究活動（2004～2008年度）

１　教員による論文発表等

１－１　論文

野家 啓一「人間は<討議を交わす動物>である」、アエラムック『コミュニケーション学がわかる』朝日新聞社、2004年2月

野家 啓一「賢治と縄文的想像力」、『宮沢賢治展図録』仙台文学館、2004年3月

野家 啓一（研究代表者）科研費報告書　人の移動の哲学(社会と文化の変動の基礎理論)　h13～15　基盤(B)　2004年3月

野家 啓一「<二人称の科学>の可能性」、『聖路加看護学会誌』第8巻第1号、2004年6月

野家 啓一「大河<科学史>の楽しみ一山本義隆『磁力と重力の発見』を読む―」、『文学界』2004年6月

野家 啓一「形而上学の復権あるいは分析的形而上学の可能性」、『思想』2004年10月号

野家 啓一「臨床と哲学のあいだ」、国際高等研究所『臨床哲学の可能性』所収、2005年3月

野家 啓一「科学技術との共生――科学技術社会論（STS）の視点から」、『人間と社会』（東京農工大学）第 16 号、2005 年 4 月

野家 啓一「＜真理＞の構成的側面」、『現代のエスプリ』第 454 号、2005 年 5 月

野家 啓一「実証主義の興亡――科学哲学の視座と所見」、盛山和夫ほか（編）『＜社会＞への知／現代社会学の理論と方法（下）』所収、勁草書房、2005 年 8 月

野家 啓一「人文学は何の役に立つのか――＜スローサイエンス＞の可能性」、『学

士会会報』854 号、2005 年 9 月
野家 啓一「歴史認識と歴史叙述――ナラトロジー（物語り論）の視点から」、芦津丈夫ほか（編）『文化における＜歴史＞』所収、人文書院、2006 年 11 月
野家 啓一「物語り論の可能性」、宮本久雄・金泰昌（編）『シリーズ物語り論 1 他者との出会い』所収、東京大学出版会、2007 年 1 月
野家 啓一「存在するとは物語られることである」、『文学』第 8 巻第 1 号、2007 年 1 月
野家 啓一「人間存在の修羅と覚醒：今村社会哲学の射程」、『東京経大学会誌』第 259 号、2008 年 3 月
野家　啓一「構成主義とは何だろうか：科学哲学の視点から」、『日本物理学会誌』第 63 巻第 5 号、2008 年 5 月
野家 啓一「科学のナラトロジー：＜物語り的因果性＞をめぐって」、岩波講座＜哲学＞第 1 巻『いま＜哲学する＞ことへ』、2008 年 6 月
野家 啓一「哲学のアイデンティティ・クライシス」、『アルケー（関西哲学会年報）』第 16 号、2008 年 6 月
野家 啓一「＜人間＞への問いと哲学」、『総合人間学２』2008 年 6 月
清水 哲郎　コミュニケーションとケアの倫理、『臨床倫理学』3,57-69, 2004.3
清水 哲郎　倫理原則をどう捉えるか---二重結果論 vs　相応性論、『臨床倫理学』3,(2004),70-79,　2004.3
清水 哲郎　サイコオンコロジーと臨床倫理、『臨床精神医学』33(5), (2004),519-523,　2004.5
清水 哲郎　　意識をさげることー鎮静ーによる緩和の倫理、『現代医療』36(6), (2004),1250- 1256、 2004.6
清水 哲郎　医療現場におけるパートナーシップ---意思決定プロセスにおけるコミュニケーション、日本学術振興会『学術月報』,58(2), 140-142, 2005.2
清水 哲郎　　緩和ケアにおける臨床的選択---患者の最善をどう見出すか---、『緩和ケア』15(2),96-102, 2005.3
清水 哲郎　倫理的な能力をどうはぐぐむか---臨床倫理の立場から,『日本看護学教育学会誌』14(3),(2005),63-67, 2005.3
清水 哲郎　医療現場における意思決定のプロセス――生死に関わる方針選択をめぐって――　『思想』976, 4-22, 2005.8
清水 哲郎　ケアとしての医療とその倫理、川本隆史編『ケアの社会倫理学』（有斐

閣）, 105-130, 2005.8.25
清水 哲郎　医療現場におけるパートナーシップ,『現代のエスプリ』458, 161-170, 2005.9
清水 哲郎　臨床倫理という営み,『理想』 675, 2-11, 2005.10
清水 哲郎　医療・看護現場の臨床倫理、坂本百大他編著『生命倫理---21 世紀のグローバル・バイオエシックス』北樹出版,(2005),153-167] 2005.10
清水 哲郎　在宅ホスピスケアを推進するネットワークを造る､『日本がん看護学会誌』19-2，37-38 頁，2005.11
清水 哲郎　共有することとしてのコミュニケーション、メンタルケア協会編『メンタルケア論 2』,(2005),167-183] 2005.11
清水 哲郎　終末期医療としての高齢者医療 ― 患者・家族・医療者間の倫理をめぐって― ,『Geriatric Medicine 〈老年医学〉』 44-1，51-56，2006. 1
清水 哲郎　The Decision-Making Process in Medicine: Treatment Choices That Affect Life and Death, *Philosophy of Uncertainty and Medical Decisions: Proceedings of the COE Conference 'Consent and Decision Concerning Life and Death'* (Bulletin of Death and Life Studies Vol.2), 21st Century COE Program DALS, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 119-123, 2006.3
清水 哲郎（研究代表）科研費報告書　ギリシア哲学とキリスト教思想の交わる場におけるロゴスの哲学の展開　H13 ～ 16　基盤Ａ　2006 年 3 月
座小田 豊　「問いかけ（ること）と知ること――哲学とは何か」、中村捷編『人文科学ハンドブック』（2005 年 3 月）
座小田 豊「フィヒテにおける「真実の生」をめぐって」（科学研究費成果報告書『Well-being(福祉・いい暮らし・幸福)概念の再検討とその実践的適用』（代表者：篠憲二　2006 年 3 月）8-19 頁
座小田 豊　「芸術と無限」（栗原隆編『芸術の始まる時、尽きる時』東北大学出版会、2007 年 3 月）427-447 頁
座小田 豊　「フィヒテー無限の自我と真実の生」（加藤尚武編『哲学の歴史第 7 巻』中央公論新社、2007 年 7 月）300 － 346 頁
座小田 豊　「「真実の生」における人間――フィヒテ宗教論の射程」（『フィヒテ研究』日本フィヒテ協会、第１５号、2007 年 11 月）
座小田 豊　「「無限」の形象化と心の襞―構想力の可能性について―」（栗原隆編『形と空間のなかの私』東北大学出版会、2008 年 4 月）79-98 頁

直江 清隆　「人間生態系と役割論」、『情況』11 月号、2004 年 11 月、p.152 ～ p.175.
直江 清隆　「近代技術と環境の倫理」、『地球に未来を』第 11 号、2004 年 12 月、p.19 ～ p.34.
直江 清隆　「状況に〈しかるべく〉応じた行為」、東洋大学哲学科編『哲学をつくる』、知泉書館、2005 年 4 月、p.191~219.
直江 清隆　「技術と善き生」、『東北哲学会年報』No.11、 2005 年５月、p.53 ～ p.62.
直江 清隆　「フォード・ピント事件」、『経済倫理の諸伝統の比較研究』（科学研究費中間報告書）、2005 年６月、p.153-161.
直江 清隆　「技術の哲学と倫理」、新田孝彦、蔵田伸雄、石原孝二編『科学技術倫理を学ぶ人のために』、世界思想社、2005 年 6 月、p.149~173.
直江 清隆　「機能と意図の問題圏に寄せて」、『モラリア』第 13 号、東北大学倫理学研究会、2006 年 10 月、p.1 ～ 12.
直江 清隆　「技術のインターフェイス　人間－人工物－世界」、『岐路に立つ人文学』、大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」、2007 年 1 月、p.61~81。
直江 清隆　「カッシーラー」、須藤訓任編『哲学の歴史』第 9 巻、中央公論新社、2007 年 8 月、p.429-～ 52
直江 清隆　Design Culture and acceptable Risk、P.Vermaas et.al.(ed.), Philosophy and Desing, Springer,2008 年 2 月
直江 清隆　「技術の哲学と倫理という課題」『モラリア』第１４号、東北大学倫理学研究会、2007 年 10 月、p.1 ～ 7.
直江 清隆　「宇宙技術の価値」　伊藤邦武編『科学／技術の哲学』（岩波講座哲学第１０巻）、岩波書店、2008 年 9 月、p.176-198。
荻原 理　「アリストテレス『詩学』の「筋立て」・「行為」の概念を通して見る、ひとの生」、『思索』（東北大学哲学研究会）第 37 号、2004 年 9 月、pp. 1-42.
荻原 理　「プラトン哲学をめぐる若干の考察――田中博士号請求論文・中澤博士論文との関連で」、『「行為と認知の統合理論の基礎」研究課題番号 14310001 平成 14~16 年度科学研究費補助金（基盤研究 B2）研究成果報告書』、2005 年 3 月、pp. 25-37.
荻原 理　「プラトンについての二つの博士論文へのコメント――中澤務「プラトン初期対話篇におけるソクラテスの倫理思想」、田中伸司「対話とアポリア―ソクラテス的探求の対話としての構造―」――」、『文化』（東北大学文学会）

第 69 巻第 1・2 号、2005 年 9 月、pp. 43-60.

荻原 理 「ジル・ドゥルーズのルクレティウス論」、『古代ギリシアにおける理性・合理性の概念―近現代の概念との対比に留意して、研究課題番号 16720003、平成 16 年度～平成 18 年度科学研究費補助金、若手研究（B）、研究成果報告書』、2007 年 3 月、pp. 28-38.

荻原 理 「J．マクダウェルの合理性概念」、『古代ギリシアにおける理性・合理性の概念―近現代の概念との対比に留意して、研究課題番号 16720003、平成 16 年度～平成 18 年度科学研究費補助金、若手研究（B）、研究成果報告書』、2007 年 3 月、pp. 39-45.

荻原 理 「われわれがしていることにめまいをおぼえてはならない」、『思想』（岩波書店）1011、2008 年 7 月、pp. 80-96.

荻原 理 「学位論文におけるマルクスの方法の一側面」、『文化』（東北大学文学会）第 71 号、2008 年 10 月、掲載決定。

1－2 著書・編著

野家 啓一 単著：『物語の哲学(増補新版)』岩波現代文庫、2005年2月

野家 啓一 編著：『臨床哲学の可能性』国際高等研究所、2005年3月

野家 啓一 共著：盛山和夫ほか（編）『＜社会＞への知／現代社会学の理論と方法（下）』勁草書房、2005 年 8 月

野家 啓一 単著：『増補 科学の解釈学』ちくま学芸文庫、2007 年 1 月

野家 啓一 編著：『ヒトと人のあいだ』岩波書店、2007 年 6 月

野家 啓一 単著：『歴史を哲学する』岩波書店、2007 年 9 月

野家 啓一 編著：『現代に挑戦する哲学』学文社、2007 年 11 月

野家 啓一 編著：＜哲学の歴史＞第 10 巻『危機の時代の哲学』中央公論新社、2008 年 3 月

野家 啓一 単著：『パラダイムとは何か』講談社学術文庫、2008 年 6 月

清水 哲郎 （伊坂青司と共著）『生命と人生の倫理』,（執筆部分：3-24, 63-193）, 放送大学教育振興会, 2005 年 3 月

荻原 理 共著 高橋久一郎、大庭健、嶋津格、竹内章郎、荻原理、門脇俊介、内田亮子、『岩波応用倫理学講義 7・問い』、岩波書店、2004 年 9 月、総頁 xi + 256 + 21。担当部分：「Ⅱ セミナー」「4 ＜ひとり＞の概念は倫理学においてどれくらい重要か」、pp. 140-161.

１－３　翻訳、書評、解説、辞典項目等

野家 啓一「解説：羊頭牛肉の現代哲学案内」、S.クリッチリー、佐藤透訳『ヨーロッパ大陸の哲学』岩波書店、2004年6月

野家 啓一「書評：佐々木力、山本義隆、桑野隆（編訳）『物理学者ランダウ』」、『東京新聞』2005年3月

野家 啓一「書評：大橋良介『聞くこととしての歴史』」、『日本経済新聞』2005年7月

野家 啓一「書評：この人この三冊＜萩原延壽＞」、『毎日新聞』2005年8月

野家 啓一「エッセイ：哲学と散歩」、『ワンデル』2005年9月

野家 啓一「解説：精神医学と哲学のあいだ」、木村敏『自己・あいだ・時間』ちくま学芸文庫、2006 年 5 月

野家 啓一「エッセイ：博士が愛した哲学」、『図書』2006 年 6 月

野家 啓一「エッセイ：惑星と教養の知られざる関係」、『曙光』第 22 号、2006 年 10 月

野家 啓一　項目執筆「生／生命／生活」「相互性」「対話」「ポストモダン」「歴史」「クワイン」「ルイス」「ローティ」、『倫理学事典』弘文堂、2006 年 12 月

野家 啓一「座談会：いま、なぜ＜ヒトの科学＞か」、『図書』2007 年 2 月

野家 啓一「インタビュー：“ スローサイエンス ” ということ」、『考えるということ』第 1 号、2007 年 3 月

野家 啓一「エッセイ：廣松哲学との出会い」、『情況』別冊、2007 年 5 月

野家 啓一「インタビュー：二十世紀哲学史のなかの廣松哲学」、廣松渉『カントの先験的演繹論』世界書院、2007 年 5 月

野家 啓一「書評：山本義隆『一六世紀文化革命』」、『山陽新聞』ほか、2007 年 5 月

野家 啓一「書評：江口重幸ほか（編）『ナラティヴと医療』」、『臨床心理学』第 7 巻第 4 号、2007 年 7 月

野家 啓一「書評：大澤真幸『ナショナリズムの由来』」、『東京新聞』2007 年 8 月

野家 啓一「解説：廣松渉の時代」、廣松渉『事的世界観への前哨』ちくま学芸文庫、2007 年 10 月

野家 啓一「エッセイ：＜山仲間＞としての車谷さん」、『作家 車谷長吉。魂の記録』姫路文学館、2007 年 10 月

野家 啓一「＜男女共同参画＞雑感：東北大学の取り組み」、『科哲』第 9 号、2007 年 11 月

野家 啓一「風雅月記１～３」、『朝日新聞』夕刊、2007 年 10 月 12 日、11 月 9 日、12 月 14 日

野家 啓一「＜哲学無用論＞に抗して」、『学術の動向』第 12 巻第 12 号、2007 年 12 月

野家 啓一「解説：詩人哲学者の面目」、坂部恵『かたり』ちくま学芸文庫、2008 年 2 月

野家 啓一「大出晁先生の＜学恩＞」、『大出晁そして大江晁』慶応大学出版会、2008年2月

野家 啓一「科学技術時代のリベラル・アーツ」、『学術の動向』第13巻第5号、2008年5月

野家 啓一「行列ができる知の快適空間へ」、『2009年版大学ランキング』朝日新聞出版、2008年5月

野家 啓一「座談会：哲学はいま」、『図書』岩波書店、2008年5月号

野家 啓一「不幸な出会い：『杜子春』と『秋山図』」、『芥川龍之介全集』第 19 巻「月報19」岩波書店、2008年7月

野家 啓一「学問が人間性にとってもつ意味」、＜哲学の歴史＞別巻『哲学と哲学史』中央公論新社、2008年8月

野家 啓一「国立大学法人化のジレンマ」、『現代思想』第36巻第12号、2008年9月

野家 啓一「科学と哲学のあいだ：パスカルにならって」、『Science web』vol.1、2008年9月

清水 哲郎　　患者の自由な意思決定をいかにして実現するか、『厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「特定疾患の生活の質（Quality of Life, QOL）の向上に資するケアの在り方に関する研究 平成15年度 総括・分担研究報告書」(2004),24-27]

清水 哲郎　臨床倫理、がん看護（南江堂）10(1),(2005),59] 2005.1

清水 哲郎 医療現場に挑む哲学、中村捷編『人文科学ハンドブック』（東北大学出版会）,(2005),202-205] 2005.

座小田 豊　項目執筆　「観念論」「実践」「承認」『現代倫理学事典』、弘文堂、2006年11月

座小田 豊　翻訳：ヘーゲル「Ｆ・Ｈ・ヤコービ著作集第３巻の書評(1817年)」（寄川編訳『初期ヘーゲル哲学の軌跡』（ナカニシヤ出版　2006年1月）71 ～ 113頁（本文）および 143 ～ 148頁（訳注部分）座小田・山口・寄川の共訳

座小田 豊　翻訳：ヘーゲル『１８２０／２１年美学講義：序論および総論の一部』（科学研究費成果報告書『芸術終演論の持つ歴史的な文脈と現代的意味についての研究』（代表者：栗原隆　2006年3月）91 ～ 113頁

座小田 豊　翻訳：ヘーゲル『ドイツ憲法論』の三つの草稿（同前報告書）　115 ～ 121頁　座小田・阿部・鈴木の共訳

座小田 豊　書評『シェリング著作集　３』(『神奈川大学評論』第55号、2006年11月）162頁

座小田 豊　翻訳　オイゲン・フィンク『存在と人間－存在論的経験の本質について』（法政大学出版局）2007年4月（信太光郎・池田準と共訳）全350頁

座小田 豊　書評「詩的反省の翼に乗って、ただなかに漂わん」(『ドイツ・ロマン主義研究』伊坂青司・原田哲史編、御茶の水書房、2007 年）(『シェリング年報』2007 年、第１５号）

座小田 豊　翻訳（共訳）: ヘーゲル『芸術の哲学　1826 年夏学期の講義から』（科学研究費成果報告書『「新旧論争」に顧みる進歩史観の意義と限界、並びにそれに代わり得る歴史モデルの研究』（代表者：栗原隆　2008 年 3 月）149-175 頁　（阿部ふく子と共訳）

座小田 豊　翻訳（共訳）: ハンス・ブルーメンベルク『コペルニクス的宇宙の生成　第２巻』（法政大学出版局）2008 年 7 月（小熊正久・後藤嘉也と共訳）全 433 頁

直江 清隆　翻訳　A．フィーンバーグ『技術への問い』、平成 16 年 3 月、岩波書店、総頁数 410 頁、2004 年 3 月.

直江 清隆　翻訳　P．ヤニヒ　『制作的行為と認識の限界 － 行為としての自然科学』、平成 16 年 4 月、国文社　総頁数 258 頁（河本英夫と共訳.

直江 清隆　「人工物の政治性―技術哲学の地平から」、『アソシエ 21　ニューズレター』、平成 16 年 8 月、p.5 ～ p.8.

直江 清隆　K．ダンジガー『心を名づけること』、平成 17 年 2 月、勁草書房（河野哲也監訳による共訳）。

直江 清隆　「設計＝デザインの哲学」、『旬刊　出版ニュース』2005 年 11 月上旬号、p.30.

直江 清隆　「設計＝デザインの哲学」（ワークショップ記録）、『科学哲学』39-1、日本科学哲学会、2006 年 7 月、p.99-100。

直江 清隆　「技術倫理から見た臨床研究の問題」、『臨床倫理学』No.4、プロジェクト研究《医療システムと倫理》、2006 年 11 月、p.79~83.

直江 清隆　項目執筆「科学倫理」「科学／研究の倫理」「アクターネットワークと集団の倫理」『応用倫理学事典』、丸善、2008 年 1 月

直江 清隆　解説「科学哲学によって〈つながる〉こと」、オカーシャ『科学哲学』廣瀬覚訳、岩波書店、2008 年 3 月

直江 清隆　「組織の責任論考序」『アソシエ 21　ニューズレター』、2008 年 8 月、p.5 ～ p.8.

直江 清隆　「科学技術と哲学／倫理」『Sciende Web』vol.1、2008 年 9 月、東北大学グローバル COE 物質階層を紡ぐフロンティアの新展開.p.15。

荻原 理　「ピレボスの快楽主義、その「極道」性」、『西洋古典叢書月報』（京都大学学術出版会）58、2005 年 6 月、pp. 1-4.

荻原 理　書評・熊野純彦著『西洋哲学史――古代から中世へ――』、『週刊読書人』第 2641 号、2006 年 6 月 16 日、p. 4.

荻原 理　翻訳　ジョン・ディロン「プラトン主義と、世界の危機」、『思想』（岩波書店）991、2006 年 11 月、pp. 45-69.

荻原 理 「モンテーニュの見解」、『人間会議』（宣伝会議）、2006 年冬号、2006 年 12 月、pp. 214-217.

荻原 理　翻訳　ジョン・マクダウェル「徳と理性」、『思想』（岩波書店）1011、2008 年 7 月、pp. 7-33.

荻原 理　翻訳　ジョン・マクダウェル「何の神話が問題なのか」、『思想』（岩波書店）1011、2008 年 7 月、pp. 60-79.

１－４　口頭発表

野家 啓一　提題発表「廣松哲学の基本構図」、廣松渉没後十周年記念シンポジウム(主催:現代史研究会)2004年5月

野家 啓一　招待講演「物語り論(ナラトロジー)の射程」、コモンズ研究会、2004年9月

野家 啓一　招待講演「科学哲学から見たEBMとNBM」、第26回ＳＯＳセミナー(主催:歯学研究科顎口腔矯正学分野)、2004年9月

野家 啓一　提題発表「法人化後の国立大学における人文科学研究」、国際文化研究科シンポジウム、2004年9月

野家 啓一　提題発表「科学技術との共生」、第2回東京農工大公開シンポジウム「共生とは何か?—<共生科学技術>を考える」2004年10月

野家 啓一　提題発表「歴史認識と歴史叙述」、日独文化研究所第14回公開シンポジウム「歴史の理念/歴史の語り」2004年10月

野家 啓一　コメンテーター「越境する身体」、第4回河合臨床哲学シンポジウム、2004年11月

野家 啓一　提題発表「東北大学における科学論と現象学の研究伝統」、東北大学の「学問風土」シンポジウム(主催:教育学研究科)2005年3月

野家 啓一　シンポジウム提題「スローサイエンスとしての人文学」、日本学術会議哲学研究連絡会議公開シンポジウム「人文知の可能性」、2005 年 4 月

野家 啓一　シンポジウム提題「日常的空間と哲学的空間」、新潟大学公開シンポジウム「空間の体験と空間の表現そして空間の創出」2005 年 10 月

野家 啓一　シンポジウム司会「空間論」、東京大学「哲学会」、2005 年 11 月

野家 啓一　招待講演「物語り論（ナラトロジー）の射程」、青森公立大学経営思想研究懇話会、2005 年 12 月

野家 啓一　招待講演「西田生命論と『近代の超克』」、東京経済大学近代思想研究会、2006 年 1 月

野家 啓一　招待講演「物語り的因果性をめぐって」、東京大学「哲学会」カント・アーベント特別講演、2006 年 4 月

野家 啓一　基調講演「操作的自然主義 vs. 共生的自然主義」、「日中哲学フォーラム」浙江樹人大学、2006 年 11 月

野家 啓一　招待講演「物語り論と科学の統合」、統合学術国際研究所講演会、2006 年 12 月

野家 啓一　提題発表「心身因果をめぐって」、国際高等研究所数理脳科学研究会、2007 年 3 月

野家 啓一　招待講演「科学技術の受容と日本文化の特質」、科学技術振興機構社会技術研究センター RISTEX 研究セミナー、2007 年 8 月

野家 啓一　提題発表「哲学のアイデンティティ・クライシス」、関西哲学会シンポジウム、2007 年 10 月予定

野家 啓一　提題発表「今村社会哲学の射程」、学術フォーラム「現代における社会と文化の理論を求めて：今村仁司記念シンポジウム」東京経済大学、2007 年 10 月 27 日

野家 啓一　提題発表「科学技術時代のリベラル・アーツ」、日本学術会議第一部公開シンポジウム「21 世紀の大学教育を求めて：新しいリベラル・アーツ教育の創造」中京大学、2007 年 12 月 1 日

野家 啓一　提題発表「宇宙の中の人間の位置」、花博コスモス・フォーラム「宇宙と人間」2007 年 12 月 9 日

野家 啓一　提題発表「自己認識する動物」、日本学術会議公開講演会「宇宙と生命、そして人間を考える」日本学術会議講堂、2008 年 2 月 16 日

野家 啓一　提題発表「科学の進展における哲学の役割」、科学技術振興機構社会技術研究センター RISTEX ワークショップ、2008 年 2 月 25 日

野家 啓一　コメンテーター「村上陽一郎先生退職記念シンポジウム」東京大学駒

場キャンパス、2008 年 3 月 26 日

野家 啓一　提題発表「哲学と自然科学のあいだ」、国際高等研究所数理脳科学研究会、2008 年 3 月 27 日

野家 啓一　基調講演「科学哲学者としての西田幾多郎」、西田哲学会大会、西田幾多郎記念館、2008 年 7 月 26 日

野家 啓一　Panelist “East Asian Country Philosophical Associations Joint Conference 1”, The XXII World Congress of Philosophy, Seoul National University, 2008 年 8 月 1 日

野家 啓一　Co-Chair of the Concluding Session “International Conference on Science and Technology for Sustainability” サピアタワー・ホール、2008 年 9 月 13 日

清水 哲郎　研究発表：Word and Esse in Anselm and Abelard, 国際研究集会 Von Anselm Bis Abaelard（2004 年 6 月 28 日～7 月 1 日、ドイツ　シュトゥットガルト）

清水 哲郎　ディスカッション：On a MS of Milano（MS Milano M2 をめぐるセッションにおける発表）, 国際研究集会 European Symposium on Medieval Logic and Semantics （2004 年 7 月 1 日～4 日、英国ケンブリッジ）

清水 哲郎　日本看護学教育学会シンポジウム 「倫理的能力をいかに育むか」シンポジスト（2004 年 7 月 24 日～25 日 山形）

清水 哲郎　シンポジスト提題：医療現場における意思決定のプロセス―生死に関わる治療選択をめぐって、東京大学 21 世紀 COE 死生学シンポジウム　（2004 年 12 月 12 日　東京）

清水 哲郎　日本がん看護学会学術集会パネル「在宅ホスピスの現状と展望」パネラー（2005 年 2 月 5 日～6 日　仙台）

清水 哲郎　基調講演「《信じる》ということ―キリスト教思想の系譜」、印度学宗教学会第 48 回学術大会パネル「信仰と解脱」（2005.5.28 仙台）

清水 哲郎　ワークショップ・コメンテータ、日本ホスピス・在宅ケア研究会第 13 回全国大会・臨床倫理分科会ワークショップ「人工呼吸器を切る：あなたならどうしますか？」 (2005.6.19 広島市)

清水 哲郎　シンポジスト提題「臨床倫理学の視点から」、看護研究学会第 31 回学術集会シンポジウム「臨床倫理委員会―その定着と看護職の役割」 (2005.7.21)

清水 哲郎　国際研究集会主催および introductory remarks：　国際中世哲学会年次コロキウム（2005.9.27-10.1 京都市）

清水 哲郎　提題「中世哲学と臨床倫理学の現場から」、日本倫理学会第 56 回大会共通課題「倫理学の現実（リアリティ）」　（2005.10.9　岡山）

清水 哲郎　シンポジスト提題「患者にとっての最善と患者の意思の狭間で―臨床倫理学の視点から―」、生命倫理学会第 17 回大会シンポジウム 2「医療と生命倫理」（2005.11.20　東京女子医大）

清水 哲郎　シンポジスト提題「終末期医療の現場から」、東京大学 21 世紀 COE 死生学 公開シンポジウム「ケアと自己決定」（2005.11.26　東京大学）

清水 哲郎　パネリスト提題「生命の質　生命の尊厳」、東北大学 100 周年記念セミナー第 4 回「生命の質への飛躍―先端科学と次世代医療―」　（2005.12.5 東京・日経ホール）

清水 哲郎　研究発表「ケアとしての医療 ―臨床倫理の源泉」、日本医学哲学・倫理学会　臨床倫理ケア研究会　（2005.12.24　東洋大学）

清水 哲郎　研究発表「QOL 概念と人の尊厳」、厚生労働省 ALS 研究班・班会議（2006.1.8-9　東京）

清水 哲郎　シンポジウム主催・司会： 臨床倫理研究集会・21COE エシックスフォーラム「臨床研究の倫理（第二回）―被験者保護システムの展望」　（2006.2.4 ホテルリッチフィールド仙台）

清水 哲郎　研究発表「医療現場における公共哲学」京都フォーラム・イン・仙台（2006.3.17　仙台）

座小田 豊　シンポジウム：「フィヒテにおける「真実の生」をめぐって」（第５５回東北哲学会大会におけるシンポジウム「フィヒテ哲学の現代的意義――絶対主観と普遍道徳」（2005 年 10 月 22 日））

座小田 豊 コメンテーター　シンポジウム「芸術終焉論を読み解く」（ヘーゲル学会第３回大会、明治大学 2006 年 6 月 18 日）

座小田 豊　シンポジウム『フィヒテと宗教』招待提題「「真実の生」における人間――宗教論と知識学の間に」（第２２回フィヒテ協会大会、南山大学 2006 年 11 月 18 日）

座小田 豊　司会　シンポジウム「精神現象学における否定的なもの」（ヘーゲル学会第５回大会、名古屋市立大学 2007 年 6 月 16 日）

直江 清隆　Schutz and Scheler、International Conference “Alfred Schutz and his Intellectual Partners”　(in:Waseda University)　2004 年 4 月 4 日.

直江 清隆　提題発表「廣松哲学と環境論」、廣松渉没後十周年記念シンポジウム

(主催:現代史研究会)2004年5月

直江 清隆　コメンテータ　「資源配分メカニズムのミクロ・ポリティクス」　第41回科学技術社会論研究会、2004年7月24日、東京大学。

直江 清隆　技術と善き生、　東北哲学会第14回大会（福島：桜の聖母短期大学）シンポジウム、2004年10月24日.

直江 清隆　「〈しかるべく〉なされる行為について」、玉川大学21世紀COEプログラム「全人的人間科学プログラム」心のしくみ研究生命観研究グループ第17回研究会、2005年3月6日.

直江 清隆　Design Culture and acceptable Risk、　Society for Philosophy and Technology (14th Biennial Inter national Conference, Delft University of Technology, Netherlands)、2005年7月22日.

直江 清隆　「設計、人間システム、責任」、論理・情報・設計に関する神戸シンポジウム、神戸大学、2005年9月5日.

直江 清隆　ワークショップ企画・司会　ワークショップ「設計＝デザインの哲学」　日本科学哲学会第38回大会　2005年12月5日　東京大学

直江 清隆　「人工物のmoralityをめぐって」　技術哲学研究会（日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業《資源配分メカニズムと公正》）東京大学　2005年12月25日

直江 清隆　ワークショップ司会・基調提題「Political Artifacts and their Significance」　第49回科学技術社会論研究会　2006年3月15日　東京大学.

直江 清隆　「生を規定する技術とそのインターフェイス；インターフェイスの強制力」　大阪大学COE「人文学のインターフェース」　大阪大学　2006年1月15日

直江 清隆　「技術のナラティブへの序説」、日本科学史学会東北支部、仙台戦災復興記念館、2007年4月22日.

直江 清隆　コメンテータ　『脳神経倫理学の展望』合評会、東京大学大学院総合文化研究科、2008年9月26日。

荻原 理　プラトン哲学をめぐる若干の考察――田中博士号請求論文・中澤博士論文との関連で、シンポジウム「プラトン哲学―対話、知識そして行為」（科研「行為と認知の統合理論の基礎」主催、PHILETH 共催）、北海道大学、2005年1月。

荻原 理　プラトン『ピレボス』で一なる「快」が語られる場所、日本西洋古典学

会第 57 回大会、千里金蘭大学、2006 年 6 月。

Satoshi Ogihara, ‘The Contrast between Soul and Body in the Analysis of Pleasure in the *Philebus*’, VIII Symposium Platonicum, The International Plato Society, Trinity College, Dublin, July 2007.

Satoshi Ogihara, ‘Puzzlement over the Notion of the Happiness of a City’, Joint seminar with Professors G. Ferrari and S. Kato, Tokyo Metropolitan University, March 27, 2008

Satoshi Ogihara, ‘Puzzlement over the Notion of the Happiness of a City’, Joint seminar with Professors G. Ferrari and S. Kato (科研「ギリシャ政治哲学の総括的研究」主催)、首都大学東京、2008 年 3 月。

Satoshi Ogihara, ‘The Epicurean Attitude to Death’, International Colloquium of Ancient Philosophy and Greco-Roman Studies, Donghwasa Temple, Daegu, Korea, August 2008.

Satoshi Ogihara, ‘The Analogy between Legislation and Medicine in Plato’s *Laws*’, 科研「ギリシャ政治哲学の総括的研究」2008 年度総会、2008 年 9 月

２　教員の受賞歴（2004～2008年度）

なし

Ⅳ　教員による競争的資金獲得（2004～2008年度）

（１）科学研究費補助金

野家 啓一　2003～2004年度　科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「和算資料全文画像データベースの作成」研究代表者

野家 啓一　2005年～2007年　科学研究費補助金萌芽研究「ナラトロジー（物語り論）による『二人称の科学』の方法論的基礎づけ」研究代表者

野家 啓一　2006 年～ 2008 年　科学研究費補助金基盤研究（A）「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」研究代表者

野家 啓一　2007～2008年度　科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「和算資料全文画像データベースの作成（第2部）」研究代表者

野家 啓一　2002～2004年度　科学研究費補助金基盤研究(A)「共生・和合の社会哲学的研究」研究分担者

野家 啓一　2003～2005年度　科学研究費補助金基盤研究(B)「<人間性の本質>観と社会的ポリシー決定」研究分担者

野家 啓一　2003～2005年度　科学研究費補助金基盤研究(B)「Well―Being(福祉・いい暮らし・幸福)概念の再検討とその実践的適用」研究分担者

野家 啓一　2008年度～　グローバルＣＯＥ「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」事業推進担当者（教育・広報担当）

清水 哲郎　2001 ～ 2004 年度　科学研究費補助金基盤研究(A)「ギリシア哲学とキリスト教思想の交わる場におけるロゴスの哲学の展開」（平成 13 ～ 16 年度）研究代表者

清水 哲郎　2003 ～ 2005 年度　科学研究費補助金基盤研究(B)　「Well-being（福祉・いい暮らし・幸福）概念の再検討とその実践的適用」（代表 篠憲二，平成 15 ～ 17 年度）研究分担者

清水 哲郎　2001 ～ 2003 年度　厚生労働省　難治性疾患克服研究事業「特定疾患の生活の質（Quality of Life, QOL）の向上に資するケアのあり方に関する研究班」（主任研究者 中島 孝，平成 13 ～ 17 年度）研究分担者

清水 哲郎　2005 年度　科学研究費補助金基盤研究(A)「西欧中世における言語哲学の展開と諸学における意義」(2005 ～ 2008 年度)　研究代表者

座小田 豊　2004 ～ 2005 年度　科学研究費補助金基盤研究(A)『芸術終演論の持つ歴史的な文脈と現代的意味についての研究』（代表者：栗原隆）研究分担者

座小田 豊　2003 ～ 2005 年度　科学研究費補助金基盤研究(B)(2)『Well-being(福祉・いい暮らし・幸福)概念の再検討とその実践的適用』（代表者：篠憲二）研究分担者

座小田 豊　2006 ～ 2007 年度　科学研究費補助金基盤研究(B)「「新旧論争」に顧みる進歩史観の意義と限界、並びにそれに代わりうる歴史モデルの研究」　研究分担者

座小田 豊　2006 ～ 2008 年度　科学研究費補助金基盤研究(A)「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」　研究分担者

座小田 豊　2008 ～ 2009 年度　科学研究費補助金基盤研究（Ｂ）「空間における形の認知を介した「主体」の存立の基底に見る感覚の根源性についての研究」　研究分担者

直江 清隆　2003 ～ 2005 年度　科学研究費補助金基盤研究（C）「技術哲学の展開の可能性と実践的意義に関する研究」研究代表者

直江 清隆　2003 ～ 2006 年度　科学研究費補助金基盤研究(A)「経済倫理の諸伝統の比較研究」研究分担者

直江 清隆　2006 ～ 2007 年度　科学研究費補助金基盤研究（C)「設計＝デザインの哲学および倫理に関する研究」研究代表者

直江 清隆　2006 ～ 2007 年度　科学研究費補助金基盤研究(A)「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」　研究分担者

直江 清隆　科学研究費補助金基盤研究(A)「ドイツ応用倫理学の総合研究」研究分担者

直江 清隆　科学研究費補助金基盤研究(B)　「経済倫理の新たなグローバル・スタンダードの構築」研究分担者

直江 清隆　科学研究費補助金基盤研究(C) 「メディア哲学の構築」研究分担者

荻原 理　2004 ～ 2005 年度　基盤（B)「Well-being（福祉・いい暮らし・幸福）概念の再検討とその実践的適用」研究分担者

荻原 理　2004 ～ 2005 年度　若手（B)「古代ギリシアにおける理性・合理性の概念――近現代の概念との対比に留意して」　研究代表者

荻原 理　2005 ～ 2008 年度　基盤(A)「西欧中世における言語哲学の展開と諸学における意義」　研究分担者

荻原 理　2006 ～ 2008 年度　　基盤（A)「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」　研究分担者

荻原 理　2007 ～ 2008 年度　基盤（C)「エピクロス派・ストア派の勧める生の内実の研究」　研究代表者

荻原 理　2007 ～ 2008 年度　基盤（B）「ギリシャ政治哲学の総括的研究」　研究分担者

荻原 理　2008 年度　基盤（B）「古代ギリシア正義論の欧文総合研究―プラトン『国家』とその伝統―」　研究分担者

（２）その他

清水 哲郎　2003 ～ 2005 年度　受託研究　プロジェクト研究《医療システムと倫理》／コア研究 医療現場における意思決定・問題解決・協働?　プロジェクト・リーダー（日本学術振興会・人文社会科学振興研究事業の研究プロジェクトリーダー)

清水 哲郎　2001 ～ 2005 年度　厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「特定疾患の生活の質（Quality of Life, QOL）の向上に資するケアの在り方に関する研究（代表 中島 孝）　分担研究者

清水 哲郎　2005 年度　日本学術振興会国際研究集会開催　国際中世哲学会年次コロキウム　代表者

清水 哲郎　2005 年度　日本医師会寄附金　個人

清水 哲郎　2004 ～ 2006 年度　21 世紀 COE「医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点」（リーダー 今井 潤）拠点メンバー

直江 清隆　2005?2007 年度　日本学術振興会人文社会科学振興プロジェクト「資源配分メカニズムと公正」研究分担者

直江 清隆　2007 年度　21 世紀 COE「医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点」（リーダー 今井 潤）拠点メンバー

Ⅴ　教員による社会貢献（2004～2008年度）

野家 啓一　科学研究費補助金審査部会人文学系委員会専門委員（2003 ～ 2005 年度）

野家 啓一　国際高等研究所学術参与（2003 ～ 2005 年度）

野家 啓一　学術会議会員候補者選考委員会専門委員（2004 ～ 2005 年）

野家 啓一　国立療養所西多賀病院倫理委員会委員（2001 年～現在）

野家 啓一　東北薬科大学倫理委員会委員（2003 年～現在）

野家 啓一　河北新報紙面審議会委員（2004 ～ 2007 年）

野家 啓一　日本学術会議第２０期、２１期会員（2005 年～現在）

野家 啓一　日本学術会議哲学委員会委員長（2005 年～現在）

野家 啓一　日本学術会議東北地区会議代表幹事（2005 年～現在）

野家 啓一　宮城県図書館協議会委員（2005 年～現在）

野家 啓一　裁判官指名諮問委員会仙台地域委員会委員（2006 年～現在）

野家 啓一　アインシュタイン・ラブ展実行委員会委員（2005 年）

野家 啓一　新潟大学人文社会・教育科学系外部評価委員（2006 年）

野家 啓一　新潟大学人文社会・教育科学系懇話会委員（2007 年～現在）

野家 啓一　メンタルヘルスケア協会スペシャリスト養成講座講師、2003 年 12 月

野家 啓一　東北大学先端研究セミナー 2004 講演「科学技術とリスク社会」、2004 年 3 月

野家 啓一　東北大学百周年記念第５回サテライトセミナー（郡山）講演「科学技術とどうつき合うか―科学の成り立ちと社会的責任」、福島県立安積高校、2005 年 12 月

野家 啓一　　理学研究科大学院ＧＰ＜科学基礎論＞講演「歴史の中の科学と科学者」、2006 年 4 月

野家 啓一　工学研究科特別講義「生命倫理」講師、2007 年 6 月

野家 啓一　工学研究科特別講義「生命倫理」講師、2008 年 7 月

野家 啓一　記念講演「科学と哲学のあいだ」、仙台一高＜壱高祭＞、2008 年 8 月 30 日

清水 哲郎　みやぎ在宅ホスピスネットワーク代表、2001 年 4 月～現在

清水 哲郎　東札幌病院臨床倫理委員、2001 年～現在

清水 哲郎　日本医師会生命倫理懇談会委員、2004 ～ 5 年度

清水 哲郎　東札幌病院倫理セミナー　講師　「治療への患者の参加（臨床倫理入門）」、2004 年 5 月 15 日

清水 哲郎　砂川市立病院看護部研修会 講師、2004 年 7 月 14 日

清水 哲郎　北海道大学病院新人研修会およびリスクマネージメント 研修会 講師、2004 年 7 月 27 日

清水 哲郎　東札幌病院倫理セミナー　講師、2004 年 8 月 4 日

清水 哲郎　愛知県看護教育研究会研修会 講師「臨床看護倫理の感性を磨く」、2004 年 8 月 18 日

清水 哲郎　東北厚生局　東北地区保健師助産師看護師実習指導者講習会 講師、2004 年 9 月 8 日、9 月 13 日

清水 哲郎　北福島医療センター第二回登録医の集い　講演会　講師、2004 年 10 月 18 日

清水 哲郎　メンタルケア協会研修会　講師　2004 年 11 月 13 日

清水 哲郎　東札幌病院倫理セミナー　講師　2004 年 11 月 22 日

清水 哲郎　福島歯科医師会新年学会・講演会　講師　2005 年 1 月 15 日

清水 哲郎　みやぎ在宅ホスピスケアの集い　講師「身体の生命と物語られる生」、2005 年 1 月 30 日

清水 哲郎　砂川市立病院研修会 講師「医療における QOL」、2005 年 2 月 28 日

清水 哲郎　東札幌病院倫理セミナー 講師「スピリチュアル・ケア」、2005 年 3 月 1 日

清水 哲郎　NPO 法人さくら会・受託研究《医療システムと倫理》共催 集会「尊厳死って何？」（東京・サンケイプラザ）、コメンテーター、2005 年 4 月 16 日

清水 哲郎　NPO 法人さくら会・受託研究《医療システムと倫理》ジョイント研究

会共催および発題「QOL と尊厳など」(東京・国際フォーラム)、2005 年 5 月 11 日

清水 哲郎　東神戸病院ホスピス市民講座公開座談会（神戸市）話題提供、2005 年 6 月 12 日

清水 哲郎　東北大学付属病院看護部研修会講師「看護の臨床倫理」、2005 年 7 月 12 日

清水 哲郎　ホスピスケア研究会講師「終末期の倫理的問題と臨床倫理」、2005 年 7 月 17 日

清水 哲郎　ナラティブ･ホーム研究会にて発表「生命と人生の倫理―ナラティブへの注目」（富山市）、2005 年 7 月 31 日

清水 哲郎　宮城県看護協会研修会（仙台市）講師「患者の権利を考える看護」、2005 年 8 月 6 日

清水 哲郎　福島緩和医療研究会研修会講師「臨床倫理」、2005 年 9 月 3 日

清水 哲郎　東北厚生局東北地区看護師等実習指導者講習会（仙台市）講師「臨床倫理の考え方と実際」、2005 年 9 月 12-13 日

清水 哲郎　南大阪緩和医療研究会（堺市）講演「緩和ケアにおける臨床倫理」、2005 年 9 月 24 日

清水 哲郎　東札幌病院（札幌市）倫理セミナー講師「ケアと自己決定」、2005 年 10 月 17 日

清水 哲郎　阪神緩和医療研究会（西宮市）講演「緩和医療における方針決定―相応性原則＋意図」、2005 年 10 月 27 日

清水 哲郎　千葉大学２１ COE「日本文化型看護学の創出・国際発信拠点」公開セミナー（千葉市）講師「臨床倫理と看護ケア」、2005 年 11 月 22 日

清水 哲郎　医の倫理について考える市民と医療者の会（北上市日本現代詩歌文学館）にて講演「市民と共に進める、開かれた医療をめざして」、2005 年 11 月 30 日

清水 哲郎　メンタルケア研修会講師（仙台市）、2005 年 12 月 3 日

清水 哲郎　東神戸病院臨床倫理関係研究会（神戸）発表「医療・看護と倫理―ケアする姿勢を支える」、2006 年 1 月 28 日

清水 哲郎　福島緩和医療研究会主催の研修会（福島市）講師「臨床倫理」、2006 年 2 月 12 日

清水 哲郎　受託研究《医療システムと倫理》 臨床倫理ベーシック研修会（東京

都）主宰、2006 年 3 月 11-12 日

座小田 豊　東北大学出版会　総務担当理事（1999 年から現在に至る）

座小田 豊　東北大学教育研究振興財団　事業委員会委員（2004 年から現在に至る）

直江 清隆　「臨床研究の倫理－被験者保護システムの展望」　（日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業「医療システムと倫理」および東北大学 21 世紀 COE プログラム 医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点）　コメンテーター　2006 年 2 月 4 日

直江 清隆　Master of Clinical Science (MCS) コース講師　（東北大学 21 世紀 COE プログラム 医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点）　第 12 回「研究と臨床の倫理」2006 年 7 月 4 日

直江 清隆　「科学技術倫理の現在」グローバル COE プログラム物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開　キックオフ・ミーティング　２００８年９月２９日

Ⅵ　教員による学会役員等の引き受け状況（2004～2008年度）

野家 啓一　日本哲学会会長（2003～2007年）

野家 啓一　日本科学哲学会理事、評議員、編集委員

野家 啓一　科学基礎論学会理事、評議員、編集委員

野家 啓一　日本現象学会委員

野家 啓一　日本ホワイトヘッド・プロセス学会理事

野家 啓一　東北哲学会委員、編集委員

野家 啓一　Husserl Studies, Editorial Board

野家 啓一　総合人間学会　理事

清水 哲郎　中世哲学会 常任委員（1990 年～現在）、編集委員(1990 ～ 2001 年)

清水 哲郎　東北哲学会 委員(1994 年～現在)

清水 哲郎　日本緩和医療学会　評議員（1996 ～ 2001 年）

清水 哲郎　日本哲学会 委員 (1997 年 6 月～現在) 、編集委員(1997 ～ 2001 年；座長　1999 ～ 2001 年)

清水 哲郎　日本医学哲学・倫理学会 理事、編集委員長（2004 年～現在）、

清水 哲郎　日本倫理学会 評議員（2004 年～現在）

清水 哲郎　日本生命倫理学会 理事（2005 年～現在）

座小田 豊　東北哲学会　委員、編集委員（1999 年～ 2007 年）　会長（2008 年～）

座小田 豊　日本哲学会　委員（1999 年～現在）、編集委員（2001 年～ 2004 年）、65 回大会実行委員長（2006 年）、編集委員・編集委員長（2007 年～）

座小田 豊　日本ヘーゲル学会　論文審査委員（2007 年～）

直江 清隆　日本現象学会企画実行委員（2002 年）

直江 清隆　日本科学哲学会編集委員（2006 年～現在）

直江 清隆　東北哲学会委員　（2006 年～現在）

荻原 理　東北哲学会委員（2003 年～現在）

Ⅶ　教員の教育活動（2008年度）

（１）学内授業担当

１　大学院授業担当

教授　野家 啓一

哲学研究演習Ⅰ（全教員で共同担当）

哲学研究演習Ⅱ（全教員で共同担当）

科学哲学研究演習 Ⅰ

科学哲学研究演習II

哲学課題研究

教授　座小田　豊

哲学研究演習Ⅰ（全教員で共同担当）

哲学研究演習Ⅱ（全教員で共同担当）

近現代哲学研究演習Ⅰ

近現代哲学研究演習Ⅱ

哲学課題研究

哲学課題研究

准教授　直江 清隆

哲学研究演習Ⅰ（全教員で共同担当）

哲学研究演習Ⅱ（全教員で共同担当）

哲学特論Ⅰ

生命環境倫理学研究演習　2学期

近現代哲学研究演習　　4単位

人文社会科学研究（研究と実践の倫理）　　2回担当

東北大学大学院生命科学研究科　生命科学特論　２回分担当

哲学課題研究

准教授　荻原　理

哲学研究演習Ⅰ（全教員で共同担当）

哲学研究演習Ⅱ（全教員で共同担当）

哲学研究演習（哲学・倫理学専攻の全教員で、前期・後期）

古代中世哲学研究演習Ⅰ（アリストテレス『自然学』、前期・後期）

哲学特論（プラトン『法律』篇、後期）

哲学課題研究

２　学部授業担当

教授　野家 啓一

現代哲学概論 3-4 セメ

哲学思想演習 5-6 セメ

教授　座小田　豊

哲学思想概論（近代哲学の生成と展開）3-4 セメ

哲学演習　5-6 セメ

准教授　直江 清隆

哲学思想演習　5-6 セメ

生命環境倫理学各論　5 セメ

生命環境倫理学演習　6 セメ

准教授　荻原　理

哲学思想概論（古代哲学史）　3-4 セメ

哲学思想各論　6 セメ

哲学思想演習　5-6 セメ

３　共通科目・全学科目授業担当

教授　座小田　豊

英語原書講読　1 セメ

准教授　直江 清隆

科学と情報（全学教育科目）　1 セメ

英語原書講読入門　2 セメ

人文社会科学総合（研究と実践の倫理）　2 回　担当

准教授　荻原　理

ラテン語　3-4 セメ

英語原書講読入門　2 セメ

（２）他大学への出講（2004～2008年度）

教授　野家 啓一

放送大学客員教授(2002年～現在)

ＮＨＫ学園「人間学」講師

教授　座小田　豊

NHK 学園、「人間学」、2004 年 7 月

北海道教育大学函館校　集中講義、2005 年 2 月

ケルン大学客員研究員（文部科学省「海外先進教育研究プログラム」による海外出張）、2005 年 3 月 28 日～ 9 月 21 日

NHK 学園、「人間学」、2008 年 7 月

准教授　直江 清隆

宮城学院女子大学非常勤講師　2006 ～ 2007 年度

准教授　荻原　理

東北文化学園大学、2004 年度